

レース用の競技車輻を作っていると、こんな機能があればいいのにな・・・と冗談半分で考えることがある。
そのたいていは、実際にはあり得ない、「ネタ」でしかないのだけれど。

商品名：「ナイス・アシスト！ ボイスシフター」

速く走るのに、シフトチェンジの上手・下手は確実に影響する。
特に、シンクロ機能のない、ドグだけで噛み合うレース用マニュアルミッションは扱いが難しい。
回転が合わないとギヤが入らないだけでなく、ドグを傷め、また最悪の場合ドグの破損、ギヤの破損という笑えない事態に陥る。
また、エンジン出力をより確実に駆動力に変換するには、最も欲しい回転数できちんとシフトしてやる必要がある。

基本的には、タコメータによって回転数を確認し、シフトポイントを掴む訳だけれどレーシング走行中のドライバーは何せ忙しい。場合によってはタコメータを見る余裕が無い場合もしばしば。

そこで、欲しい回転数に達した時、コクピット内のライトが光ることによって視覚的にシフトポイントをドライバーに伝えるデバイスがある。
それがシフト・ランプと呼ばれるもので、様々な種類がある。

考えた。
場合によっては、光でも、その情報を伝えきれないコトもあるのでは？

もう少し考えた。
じゃあ、「音」だろう、と。

ギヤを入れる。
アクセルを踏む。
回転が上がり、おいしいところまでポイントが近づく。レブ・カウントは3段階。
まだ少しだけ回転が低い「まだ、まだよ！ まだ、まだよ！」
シフトポイントまであと僅かのところで「もうちょい！ もう一声！」
そして、欲しいポイントに来た瞬間「いまっ！ ハイっ！ いまっ！」
と、まくし立てる。

しかも、その瞬間から許容誤差が小さくシフト出来るほど、その素早さに応じて「天才っ！」「ナイスっ！」「良しっ！」「えっ？」「あれっ！？」という5段階評価。

万が一、レブった場合。

加速状態で「はやくっ！ 痛いっ！ あいたた！」と、稲川淳二が突如現れる。
減速状態なら、レブ具合によって「イマイチ！」「イマサン！」「下手っ！」
デトネーションを感知すると「おいっ！」を20秒間言われ続ける。

多様なニーズに対応するため、フォローボイスの設定はパターン各種を用意。

- 方言（標準語/大阪弁/沖縄弁）
但し、沖縄弁を選択すると、どのポイントでシフトしても「いーさあ〜」と言う。
- テンポ（標準/やさしい/こわい）
- 声（標準/オトコ/オンナ）
- 声色（標準/新宿二丁目/エロ）

データロガー上でもサウンドプレイヤーの起動可能。

こんなのあったら、面白いのになあ。

(27June,03)

